

1. 研究主題・副主題

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

～ 言語活動と単元設計の工夫を通して ～

2. 主題・副主題設定の理由

（1）次期学習指導要領の趣旨から

少子高齢化、情報化、グローバル化、人工知能の発達などの社会的な変化は加速度を増し、将来を予測することが困難な時代となっている。このような時代だからこそ、子どもたちには多様な人々と協働しながら、よりよい社会や幸福な人生の創り手となれるような資質・能力を身に付けることが求められている。新学習指導要領では、その資質・能力を「生きて働く知識・技能」、「未知の状況に対応できる思考力・判断力・表現力」、「学びを人生や社会に生かそうとする、学びに向かう力・人間性」と位置付け、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して、それらの育成、涵養を図ることを目指している。本校としても、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業の改善、工夫に努めたい。

（2）教育目標の具現化の視点から

本校では、教育目標（期待する生徒像）『進取：深く考え進んでやりとげる生徒』『協調：温かな心で助けあえる生徒』『自律：心とからだの強い生徒』の具現化を図る手立てとして、求める学校像、教師（組織）像、生徒像を掲げるとともに、研究主題を実践的に追求し、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成を目指してきた。また、今年度の経営方針に「新学習指導要領を見据え、新しい時代に必要な資質・能力の育成と学習評価の充実に努める。」ことを掲げ、各教職員が研修に努めながら、常に授業改善、自らの資質向上に取り組んでいる。本研究を推進することで、学校教育目標達成のための一助としたいと考えている。

（3）生徒の実態から

生徒の実態把握に関する調査（1、2年標準学力調査）による経年比較の結果から、1・2学年とも伸びが見られ、これまでの取り組みに一定の成果があったものと分析している。しかし、単元や観点によっては落ち込みが見られ、課題があることも事実である。国語では、「言語についての知識・理解・技能」や「書く能力」、数学では、「数量や図形などについての知識・理解」「数学的な見方や考え方」の観点について躓きが多く見られた。このことから生徒には、「自分の考えや理解したことを表現する力が不足している」「『見方・考え方』を働かせる力が不足している」「単元や題材によって学習内容の理解が不足している」ということが考えられる。これらの課題を踏まえ、見方・考え方を働かせたり、表現力を高めたりするには、どのような言語活動を充実させることができるかという授業計画の改善視点や、単元や題材など内容や時間のまとまりで、学習を見通し、振り返る場面をどこに設定するか、ねらいを明確化し身に付けさせたい力をどのように育むのかという単元計画の改善視点の2つの観点から授業改善を図っていきたいと考えている。

令和2年度は、新型コロナウイルスで校内研修を縮小したため成果は得られていない。また、令和3年度は、研修担当で校内ICT環境の整備、実技研修を実施したため、一部仮説の解釈を変更した。

3. 研究で目指す生徒像

【 研究を通して目指す生徒像 】

学習内容を理解し、表現できる生徒

学習内容の理解にあたっては、意見交換、ディスカッション、話し合いなどの学び合い（音声言語）を通して、自分の考えを説明したり、他者の意見を聞いたり、関連付けたりしながら、再度自分で考えていくことが大切である。また、振り返り、事実の確認（文字言語）を通して、丁寧に自らの学びを見つめ、熟考し、学びを自分のものにしていくことで、学習内容が定着し、自己の変容の気付きにつながっていく。これらの積み重ねが、新学習指導要領で求められている、資質・能力の育成につながっていくと考える。

4. 研究の仮説

本研究を進めるにあたって、次のような研究仮説を設定し、実践、検証をしていきたいと考える。

〔仮説 1〕

各教科の見方、考え方に関わる用語（以下「キーワード」）を使う言語活動を充実させることで、生徒は学習内容を理解し、それらを表現する力をつけることができるであろう。（Chromebook 活用の模索）

〔仮説 2〕

生徒の適性や実態に基づいて、ICT 機器を活用した単元を設計することで、生徒は、学習内容を理解することができるであろう。

5. 研究の視点と内容

《研究主題》「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
～ 単元設計と言語活動の工夫を通して ～

【研究の視点 1】

キーワードを用いた言語活動の充実

【研究内容 1】

○キーワードを積極的に用いた、学習内容の説明や学び合いの実施（Chromebook 活用の模索）

○キーワードを積極的に用いた学習の振り返りの実施（全教科で統一した様式の Google forms を活用）

【研究の視点 2】

ICT 機器を活用した単元設計

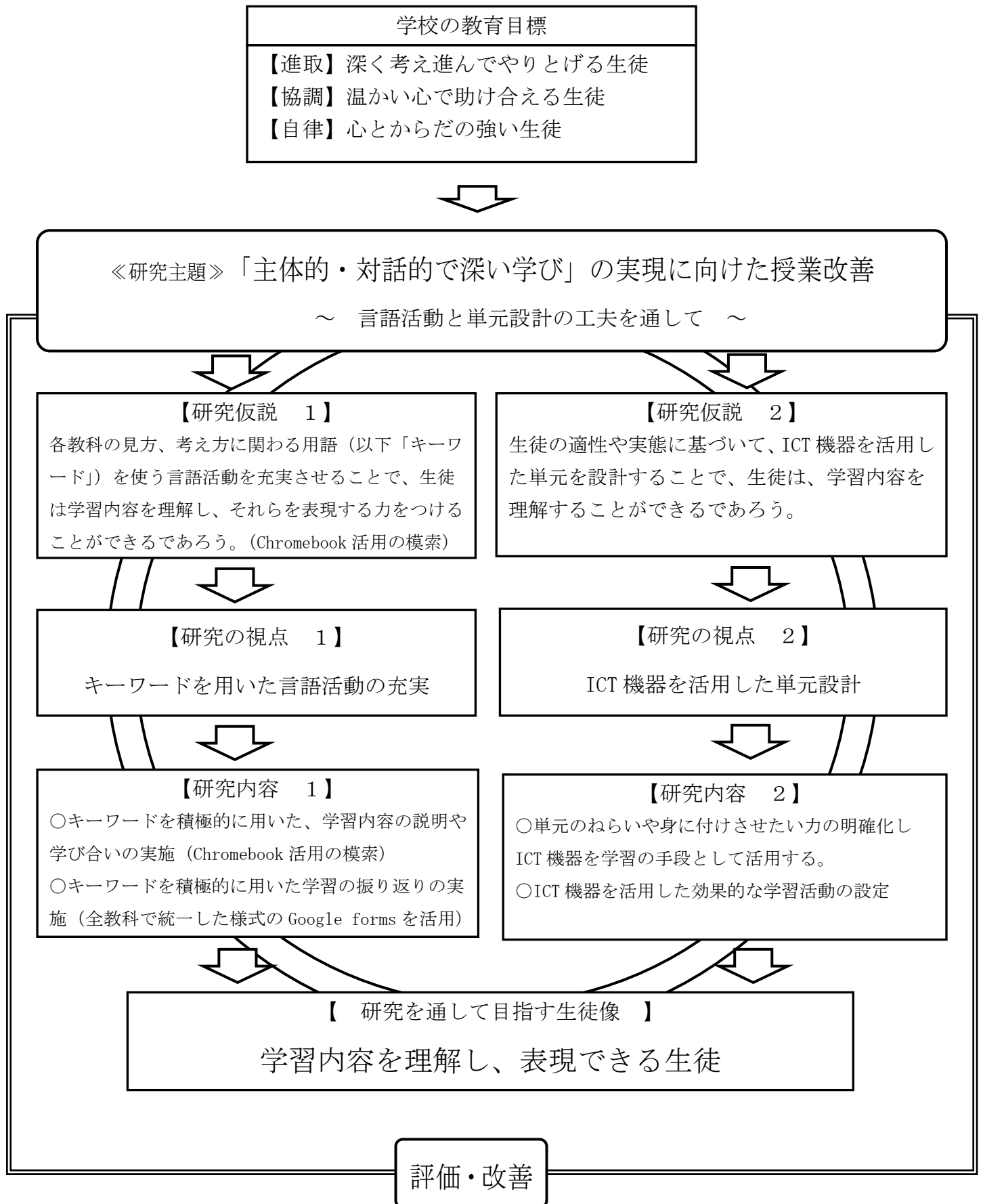
【研究内容 2】

○単元のねらいや身に付けさせたい力の明確化し、ICT 機器を学習の手段として活用

○ICT 機器を活用した効果的な学習活動の設定

《研究の場》 授業

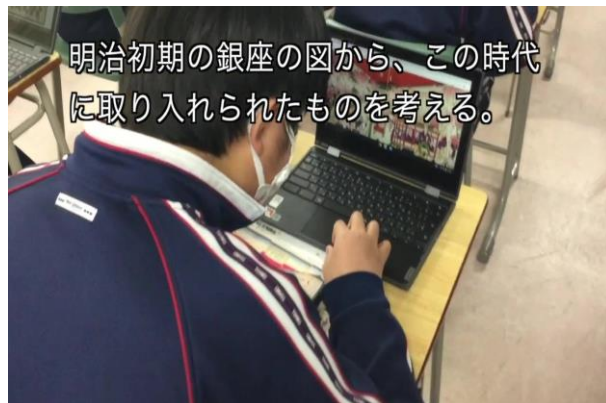
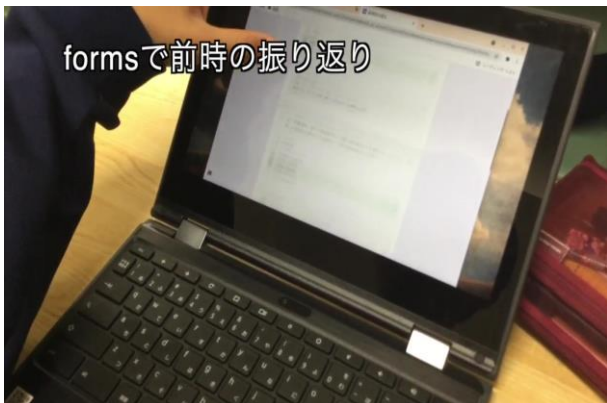
6. 研究の全体構造図



7. 研究の具体的な取組

(1) ICT機器を活用した単元設計の工夫

授業において見通しと振り返りを明確にし、生徒の学ぶ意欲を高めるために、ICT機器を効果的に活用することが重要である。そのためにも、ICT機器の活用について、教員側のスキル向上も必要。



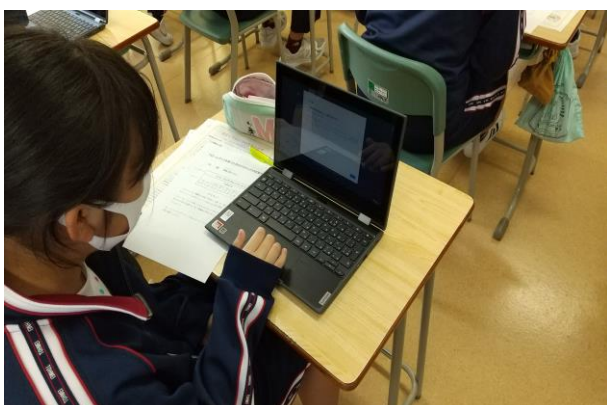
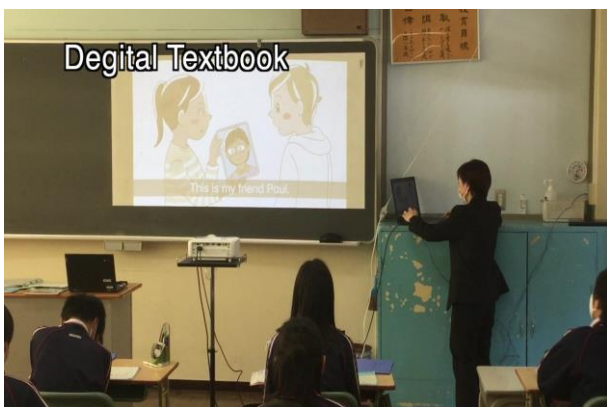
【本時のねらいについて】

本時の課題をはっきりと提示すべき。そこをおろそかにしてしまうと、ICT機器の活用に重きを置きすぎる傾向となる。

(2) ICT機器を有効活用した効果的な学習活動の設定の工夫

言語活動ならではの音声認識機能を活用する。Chromebookを使用した音声入力について、発音の正しさが認められ、生徒の「やってみたい」という意欲をかきたてる。

(例) デジタル教科書の活用、映像(写真・動画)をみせる、グーグルフォームの活用



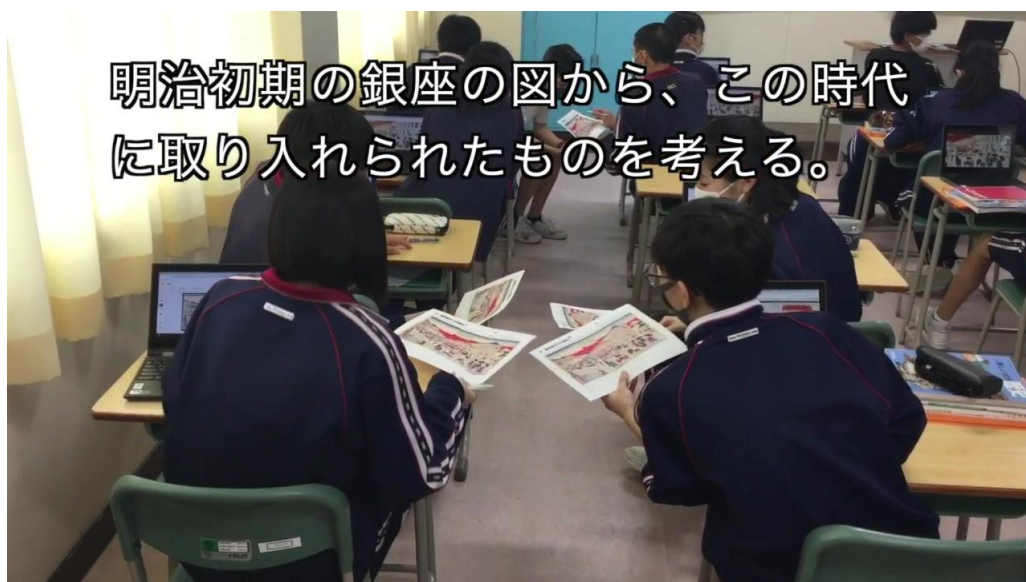
【ジャムボードや動画を使つての資料の提示について】

- ・ジャムボードを使つての資料（絵）の拡大が有効である。
- ・資料（絵）の拡大が、発見や気づきにつながる。
- ・動画で内容を深めることもできる。
- ・ジャムボードで資料（絵）を配布したほうが、コピーより鮮明である。
- ・自席でジャムボードの資料（絵）に直接書き込みをできるようにすることで意欲が向上する。

(3) 学び合いの設定

I C T機器を活用した協働作業をする際は、しっかりとルールを決めて取り組ませる必要がある。さらに、デジタルとアナログの適切な使い分けでより学習効果が高まる。

また、言語活動を充実させることで、生徒たちの学習内容の理解やそれらを説明する力の向上が図られる。



8. 成果と課題 (○成果 ●課題)

(1) 研究主題・副主題について

○主題の意図がおおむね理解され、新型コロナウイルスの対応による規制のある中、非接触型の対話的な学びを思案し、主題に沿った授業研究を行うことができた。

(2) 目指す生徒像について

○目指す生徒像がおおむね共有され、そのための育てたい力を意識しながら授業研究を行うことができた。

(3) 視点と内容について

○視点1と視点2の内容がおおむね理解され、視点を意識した授業作りが行われていた。とりわけ、グーグルフォームを使った小テストでフィードバックが即時得られるなど、ICT機器を活用した効果的な学習活動を行うことができた。

●ICT機器の活用を目的達成のためにどう使うか、より考えることが必要。

(4) 授業研究の持ち方について

○研究授業の持ち方は妥当であった。

○職員全体で教材研究を深める、授業を見せ合う、など協力して指導案を検討することで、各自の授業力の向上につながった。

○今までは模造紙や拡大した指導案の用意などの準備が大変であったが、デジタルツールを用いることで、その負担が軽減された。

●ICT機器の導入段階ということもあり準備する時間が多くなってしまった。

●学校行事との兼ね合いで十分に指導案検討が出来なかった部分もあり、授業者に負担をかけた。日程を工夫し、無理なく充実した授業研究にしていきたい。



← 研究協議の様子
(ジャムボードを使用)

ジャムボード →

